

「書く能力」の向上を図るノートや補助教材の工夫

【蓮田市教育委員会】

1 学校、学年、教科 中学校、第2学年、国語科

2 ねらい 「書く能力」の向上

(文章の構成を工夫し、自分の考えをわかりやすく記述できるようにする。)

3 具体的な工夫・改善

(1)過年度の「埼玉県学習状況調査」の問題演習や類似問題に取り組みさせた。

(2)授業で教科書を判読する際に、赤ペンなどの筆記用具を必ず持たせ、キーワードとなる語句や一文を強調して読むことで、重要な部分をチェックする習慣をつけさせた。

(3)授業で使用するノートの下から5cmくらいの所に線を引かせ、板書したことを写させるだけでなく、関連することを指導者が口述したり、自身の疑問や意見をメモできるようにした。

【ノート指導の例】

The image shows a student's handwritten notes on a piece of lined paper. The notes are organized into several sections:

- Top Right:** Title '虹の足' (Rainbow's Feet) and author '吉野 弘' (Yoshihiro Yoshino). A note says '詩の二つのまじり' (Mixing of two poems).
- Middle Right:** A section titled '◎詩の種類' (Poem Type) with a note: 'この詩は形式上の分類では自由詩である。用言語上の分類では口語詩である。' (This poem is free verse in formal classification. In linguistic classification, it is colloquial poetry).
- Middle Left:** A table titled '◎構成' (Structure) with four numbered points:

一	作者の視点や心の動き 雨あがりの雲間からの陽射し ← 進行方向 行く手に株名山
二	虹の足を発見する
三	虹の足とその底にある村といくつかの家の様子に目を向ける
四	虹の足の中に女が、それに気がない村の人々について考える。 虹の足を人の幸福に置き換えて考える。
- Bottom Left:** A section titled '◎詩の表現技法' (Poetic Techniques) with a list:
 - 表現技法: 詩の中の表現
 - 比喩: 乾麺みたりに真直な山路を登るパスの中で見たのだ、虹の足を。
 - 倒置法: 虹がそこ足を下ろしたのを。
 - 擬人法: 虹がそこ足を下ろしたのを。
 - 対句的表現: すくなく空に立ったのを。
- Bottom Center:** A comparison between '口語' (Colloquial) and '文語' (Literary). A note says '現代仮名遣い ← 歴史的仮名遣い' (Modern kana usage ← Historical kana usage).
- Bottom Right:** A note about '自由詩' (Free Verse) and a reference to 'No. 1 四二一(木)'.

- (4) 文学的文章や説明的文章の単元で、200字や300字の原稿用紙に自分の思いや考えを書かせるようにした。
- (5) ワークシートを用意して、文学的文章は時間、場所、場面、登場人物についての行動やキーワードとなるセリフを記入させ、説明的文章は、序論、本論、結論の順に、話題の提示、根拠の提示、筆者の考えや主張などをまとめるようにした。

【ワークシートによる指導の例】

◎ 「敦盛の最期」

(1) 登場人物
 ・ 熊谷次郎直実……(源氏) 方の武将で、逃げる平家を追って海辺に向かう。
 ・ 平 敦盛……平 経盛の息子で、(十二・七) 歳ぐらい。一の谷の敗戦後、逃げるところを直実につかまえられる。

(2) あらすじ

場 面	あ ら す じ
若武者の首をとろうとする直実 (20ページ1行～8行)	直実は若武者を押さえつけ、殺そうとしたが、相手は(小次郎)(わが子)と同じぐらいの年の美少年だった。
直実と若武者のやりとり (20ページ9行～21ページ11行)	直実は「助けよう」と思って名を尋ねたが、若武者は「首を取って人に尋ねなさい。」と応じた。
直実がやむなく若武者を討つ (22ページ1行～23ページ11行)	若武者の立派な態度を見て、直実はますます助けようと思うが、味方の軍勢が集まってきたため、泣く泣く若武者の(首)を切った。

(3) 直実の苦悩

← (若武者を助けようと思う)
 わが子の(小次郎)と同じぐらいの年で、顔かたちも美しく、(死)を覚悟した態度も立派である。この若武者を討つても討たなくても、戦の(勝負)には関係ないだろう。小次郎が軽い傷を負っただけでも自分はずっと思っているのに、討たれたと聞けば、その(父)はさぞや嘆くことだろう。

(泣く泣く若武者を討つ)
 自分が助けようとしても、あとから来る(味方)の軍勢にやられてしまうだろう。他人に討たせるよりも、同じことなら自分の手にかけて、死語の(枕詞)をしよう。

4 取組の成果

- (1) 過年度の「埼玉県学習状況調査」の問題演習や類似問題に取り組みさせることで、問題を解くコツを身につける生徒は増えた。
- (2) キーワードとなる語句や要点、話し手や著者の意図などをメモに書き出すことができるようになった。
- (3) スピーチや作文の際、テーマに沿って段落ごとのメモを作成するようになった。
- (4) 各単元で、範読もしくは音声CD再生後に、自分の思いや考えを短作文で表現できるようになった。